

Rotary



奉仕しよう
みんなの人生を
豊かにするために
SERVE TO
CHANGE LIVES

WEEKLY

第1451回任意例会

2021年（令和3年）10月7日

清水中央ロータリークラブ

<http://www.portwave.gr.jp/shimizu-chuo/>

会 長 渡 邊 芳 一
副会長 野々村勲夫
幹 事 黒 田 侑 加

例会日 木曜日 12:30~13:30

例会場 清水ナショナルトレーニングセンター

事務所 静岡市清水区真砂町3-20

054-371-9000

054-340-2550

◆会長あいさつ

会 長 渡 邊 芳 一 君

ロータリーでは、10月は米山月間だそうです。

後ほど米山記念奨学委員会、宮原委員長より、米山奨学金制度のご説明と、寄付のお願いをさせていただきますので、詳細については避けさせていただきます。一言だけ、日本のロータリークラブで運営される素晴らしい奨学金制度ではありますが、世界を取り巻く国勢の状況や留学生の変化など大きく時代は様変わりをしてきています。私個人の意見として米山記念奨学金制度は変化に追従できずにいるとおもいます。私たちの寄付で成り立つ奨学金制度なので、そんな意味合いも考えながらも、多くの皆さんからの寄付をお願いいたします。

さて、コロナ感染対策としての緊急事態宣言も解除され、清水の街並みにも灯りが戻ってきたように見えます。10月最初の週末は東京方面を中心とした県外の車を多く見ました。これから秋の行楽シーズンとなり、ますます人出も増えてくることでしょう。まだまだ日常の感染対策は続いていくと思いますが、緊急事態宣言で思い知らされた、普通の生活のありがたみを感じながら生活していきたいと思っています。

今後のスケジュールですが、10月10日のまぐろ祭りは延期の為例会は休会、10月23日、土曜日の梶原山ハイキングは予定通り実行いたします。

そして、いよいよ10月28日からは正式な例会が再開いたします。今まで通りの感染対策は引き続き行いながら、食事をとりながらのリアル例会と、都合で参加いただけない方向けにリモート例会を組み合わせ、ハイブリット例会として、しばらく実行していきます。同時に他クラブの方はリモートでのメイクアップが可能となります。もしかすると海外からのメイクアップがあるかもしれません。緊張しながらも楽しみにしてください。

◆幹事報告

◎10月プログラムの確認

10月7日 リモート（任意例会）

卓話：前田 陽俊 君

10月14日 休会

10月21日→10月23日(土) ハイキング例会

10月28日 ハイブリット例会（正式例会）

「ロータリーの友」紹介

卓話：田島 和子 君

◆委員会報告

◎米山奨学委員会

米山奨学金説明と寄付のお願い

（寄付受付は10月28日）

◎会員組織委員会

RLI参加のご案内

◎プログラム親睦委員会

ハイキング例会のご案内

（10月15日までに欠席の返信をお願いします。）

◆卓 話

PARADOX

前 田 陽 俊 君

今回のテーマを選んだ理由

自己紹介の続きということも含めて、自分の興味のある事柄を趣味などからご紹介しようと思ったのですが、私の釣れない釣りのお話はいささか聞いていただくには忍びないということで、それ以外で何か面白そうな話題がないかと思案しました。

私は、昔から本が好きで読むことが多かったのですが、そのほとんどが科学や宇宙についてのノンフィクション系のものばかりでした。

昔、休み時間に女の子が静かに読んでいた小説に憧れて読んだことがあったのですが、一度も一冊を読み切ったことがありません。

ただ、ここ20数年の科学や宇宙物理学は、知見の進

捗が速すぎて、専門書の内容もすぐに陳腐化するような状況があり、また理論そのものが理解不能・突飛すぎでとても手に負えないので、定期的にある程度新しい情報が手に入る NEWTON などの科学雑誌へ移行しました。

ここ最近を読んでいなかったのですが、この話題を出すにあたって最新刊を検索したらちょうど【パラドックス 宇宙・物理編】について特集していたので、ちょうどいい話題かなって勝手に思っております。

【パラドックス】についてお話させていただこうかと思います。

ちなみに、一言にパラドックスといっても、哲学・数学・物理学・経済学や医学など様々な分野で色々なパラドックスが紹介されています。

哲学のパラドックスは、問いは単純でも哲学者が何百年も考えていまだ誰も納得できる結論が出ないものばかりでこの時間では足りず、物理学のものは専門用語が難しくて説明するのに私の知識が足りません。そんなわけで、今日は皆様に直感的に考えていただける範囲から、有名なパラドックスをご紹介しますと思います。

PARADOX = 正しそうに見える前提と、妥当に見える推論から、受け入れがたい結論が得られる事を指す言葉である。パラドックス 逆説とも言う。

親殺しのパラドックス

ある人が時間を遡って、血の繋がった祖父を祖母に出会う前に殺してしまったらどうなるか

- 唯一の可能な時間線は完全に首尾一貫しているものだけであり、時間旅行者が過去に遡ってする行為はすべて歴史の一部であって、首尾一貫性を崩すようなパラドックスとなる行為は決して実行できない。
- 歴史（時間線）は常に様々な「世界」に分岐している。（量子物理学）
- 現在は過去を改変しようとする未来からの干渉を織り込んだ上で成り立っている（ドラえもん）

砂山のパラドックス（哲学）

砂山から数粒の砂を取り除いても砂山だが、数粒取り除く操作を何度もくり返し、最終的に一粒だけ残ったものも「砂山」と呼べるか。

哲学者たちの解決策

- 砂粒が何粒集まっても「砂山」にはならないとする
- 「砂山」と呼べる砂粒の数の下限を設定する
- 「砂山である」／「ほぼ砂山である」／「一部砂山である」／「少し砂山である」／「砂山でない」といった状態（さらに連続的な無数の中間状態）で表す

オルバースのパラドックス（宇宙論）

「宇宙の恒星の分布がほぼ一様で、恒星の大きさも

平均的に場所によらないと仮定すると、空は全体が太陽面のように明るく光輝くはず」なのに、現実には空には星の明かりで埋め尽くされてはいない。

「空は全体が太陽面のように明るく光輝く」ために必要な距離や時間、あるいは星の密度は、実際の宇宙の大きさ・年齢・密度よりおよそ10兆倍も大きなものとなることが明らかとなったため、パラドックスの前提は成立しないことがわかっている。

Q 1 少なくとも2人が同じ誕生日の人がいる確率が50%を超えるのは、何人が集まったときか？

- A 23人 50.7%
- B 43人 92.4%
- C 63人 99.7%

（正解はA）

Q.2 ある家庭に2人の子供がいる。1人は男の子の時、もう1人の子が男の子である確率はいくつか？

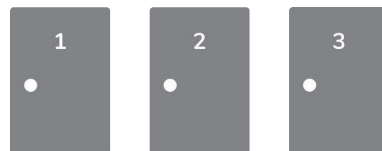
問題解釈のパラドックス

「二人のうち最低一人は」男の子でもう一人が男の子の確率は、1/3

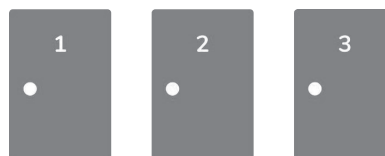
「二人のうちどちらか一人を確認したら」男の子だった時、もう一人が男の子の確率は、1/2

Q 3 モンティホール問題

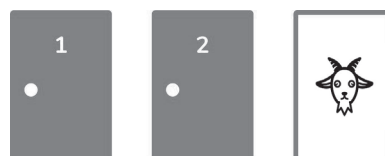
【1】・【2】・【3】の扉のうち、開けると当たり高級車の入ったの扉が一つだけあります。他の二つにはハズレのヤギがいます。当たりの確率は 1/3 です。



あなたは今、【1】を選びました。



出題者は、残った扉のうちヤギのいる扉を一つ開けます。



ここで、出題者から最初に選んだ【1】から【2】に変更することもできると伝えられます。

あなたは【2】に変更した方がよいと思いますか？